

【海外実習レポート】



【プロフィール】

叶 裕介（かのう ゆうすけ）34歳、仙台出身、元公務員

元々ベトナムに興味があり、ベトナムに実際に行った際、そこでベトナムの文化、ベトナム語に対してさらに興味を持ちその後何度も旅行したり、ベトナム語を覚えるために語学学校に通うことになった。その後、語学を生かした仕事に就きたいとの思いから、前職を退職、1年間の（アルファではない学校で）日本語教師養成講座(420時間)を修了。ちょうどアルファがベトナムで実習を行っていることを知り、本実習を希望。実習後は、日本語の面白さを伝えるとともに、ベトナム語もできる日本語教師として活躍できるよう、さらに経験を積み精進していきたい。

【実習】みんなの日本語I、IIを学ぶ初級レベルのクラスを担当。教師のいろはもまだわからない状態だったので、文型や語彙の抜き出し、各課の教案のストック等もまだ満足に準備ができていないという不安が半分、実際に学生の前で教えられる興味が半分の中で渡越した。

学校では、毎週金曜日が私の担当授業だったので、1週間の流れとしては、授業前に教案提出、フィードバックを受け教案を修正、さらにパワーポイント等教材の授業準備という流れだった。実習全体を通して、より精巧な教案を作れるようになるという目標のために、まだまだ慣れない教案と毎日格闘だった。ストックが乏しく、ゼロ同然から語彙、文型の研究、練習の活動を考えるのは忙しかったが、私の担当講師の助言もあり、無事授業に間に合わせることができた。参考書を見ずに練習活動を考えるのは苦労させられた。思いついてはボツにする、を何度も繰り返した。いい活動が思い浮かばず夜中2時まで考えたこともいい思い出になった。

当初2ヶ月の予定の実習だったが、ビザの関係上滞在期間が1ヶ月しか確保できずタイトなスケジュールだったが、そんな中でも教案の準備をすればするほど、授業中の自分の振る舞いや学生の発言や返答も格段に向上するので、授業に返ってくると実感できたのが収穫だった。

それから、実際に授業の中で学生から「寒いですから、教室のエアコンを消してもいいですか」という発言があった。実習前までは、パワーポイントのスライドや絵カード=教材という頭があったが、この学生の発言から教室にあるもの全てが教材になりうるのだということを私自身教えられる機会になった。（写真 左：練習活動中の様子、右：語彙導入中の様子）





【生活】実習後なので言えるが、私が現地に引き落とし用に持ってきたクレジットカード2枚が使えなくなってしまい、手持ち現金4万円で1カ月生活することになってしまった。宿泊代は支払済だったのでそれ以外食費や移動費、雑費全て含め1日、日本円だと約千円で生活しなければならなかった。ある程度ベトナム語もできたので、安い食堂でほぼ毎日外食しても、全部で3万5千円程度で済んだので、リーズナブルだった。

宿泊先は、ホテルではなく個人の家の空き部屋を間借りするタイプの部屋だったのでホテルより費用をかなり抑えられた。安く済ませたい、ベトナムの民家に住んでみたいという人にはおすすめだ。（写真 上：ハノイの街とコーヒー、食事）

【旅行、遊び】ベトナムはバイク社会なので、バイクの後ろに乗って行きたい場所まで行けるバイクタクシーが街中を走っている。1日2日あればハノイ以外に近場にも旅行スポットが多いのでおすすめだ。週末は、ホアンキエム湖や旧市街と呼ばれる観光客向けのエリアに行ってフォーを食べたり、カフェに入って、ベトナムのコーヒー（濃い目のコーヒーにコンデンスミルクと氷を入れたコーヒー）を飲むなどして街ブラすることが多かった。あいにく40度近い天気の日が続くなど酷暑続きだったが、夜は出歩くのにちょうどよく、街中や公園、飲食店などいつでも好きな時に行けるし日本よりもぎわいがあって楽しい。（写真 左下：レストランでの食事）



【ベトナムについて】実習の合間に学生と一緒に食事に行ったり、アイスクリームを食べたりベトナムを案内してもらったりベトナムについて教えてもらった。

日本を離れて1カ月生活してみると日本の当たり前が通用しないことにいまさらながら気づく体験ばかりだった。タクシーに乗ったら、「ガソリンがないから先に給油してから行く」という運転手や、「知り合いから電話が来たからちょっと待ってくれ」という運転手、路線バスの信号待ち中に露店で買い物する人等、挙げればきりがないが、これがこここの当たり前のだと意識する出来事ばかりだった。今回の海外実習を通して、教案作成等の経験もそうだが、学生の身近な生活を実体験することでわかりやすい例文や会話練習の活動を考える上で大いに活かせる、役立てられる経験ができる実習だった。（写真 左：記念写真 上：学生との送別会の様子）

